

【写真左から】山田村長、「東海村古文書を学ぶ会」の藤本啓二さん、照沼秀男さん、佐藤美智子さん、根本靖子さん、伴教育長



江戸時代の東海村は…? 村内の古文書を解読・編集 「東海村文書史料Ⅲ 一照沼家文書一」刊行

6月16日、文書史料から江戸時代の東海村を読み解く「東海村文書史料」の第3巻が刊行され、古文書を解読・編集した「東海村古文書を学ぶ会」の皆さんが、村長と教育長へ報告に訪れました。第3巻は、江戸時代に旧照沼村とその周辺をまとめていた水戸藩の役人、照沼市郎左衛門が記録した奉行所等とのやり取りの文書を解読したもので、幕末の動乱期の東海村と周辺の村の様子がみられる貴重な資料です。村立図書館や歴史と未来の交流館で閲覧できるほか、歴史と未来の交流館で販売しています。



これからも住み心地がよいたと感じてもらえるように 「街の住みこち&住みたい街ランキング2022」

大東建託株式会社が実施する「いい部屋ネット 街の住みこち&住みたい街ランキング2022」の北関東版および茨城県版で、東海村が昨年に引き続き、住みこちランキングの第2位に選ばれました。特に「行政サービス」や「静かさ・治安」、「物価・家賃」の項目で高い評価を得ました。村ではこれからも、住民の皆さんに住み心地がよいたと感じていただけるように、魅力的なまちづくりに取り組んでいきます。

「保育」という おしごと

— 保育者からのメッセージ —



子どもたちと過ごす中で「幸せだな」と感じる毎日を大切にしています

親が子どもと共に成長していくように、保育士も子どもと関わることで一緒に学び成長していきます。まだまだ分からないことばかり、学ばなければならぬことばかり…。だからこそ、保育という仕事はやりがいがあるのだと思います。

コロナ禍で生活様式が変わり、大変なことが多い分、何気ない日常の大切さや、そこにある幸せを感じていきたいと思っています。子どもたちが安心して過ごせる環境の中で、笑顔あふれる保育所を、一緒につくっていきませんか。

村越恵子 主任保育士

小さい子が好きで保育士になりましたが、好きだけでなく難しいことや、うまくいかず悩んだこともたくさんありました。そんなときに思い出すのは、私が保育士になりたての頃のこと。ある先輩保育士が、日だまりの園庭で、子どもたちとおしゃべりしながら虫探しや花摘みをしていました。本当に楽しそうだなと思ったとき、先輩の「幸せだな」というつぶやきが聞こえてきました。その時感じた温かい雰囲気と先輩のキラキラした笑顔は、私の心に深く刻み込まれ、今でも思い返せるほどです。そして先輩のように、保育をしていて心から「幸せだな」と思う瞬間があるたびに、保育士になって良かったと思うのです。

日々の保育の中で、私は、子どもの良い所や楽しいエピソードを保護者に伝えることを大切にしています。それは、保育所でのお子さんの様子を伝えるのももちろんのこと、子育ての楽しさを共有し、大変さを半減させたいと思うからです。お子さんの様子を知らず、保護者の皆さんは子どもの成長を喜び、輝くような笑顔を見せてくれます。子育てにはつらいことや大変なこともありませんが、「幸せだな」と思えることがあるから前を向いていけるのだと思います。このように、子育て中の保護者に寄り添いお手伝いができることも、この仕事の魅力の一つです。